

オキナワモズク種網の冷蔵保存試験 —技術改良試験報告—

専門技術員 瀬底 正 武

本試験の詳細は、昭和61年度技術改良試験報告書において（別刷り）報告したので、ここでは目的と要約だけを記す。

1. 目 的

早期母藻を確保するためには、安定した種苗の保存が要求される。現在実施されている保存方法は、種板やパンライトを使用した保存であるため、管理面で困難であり、不安定である。そういったことに鑑み、昭和58年度の予備試験を皮切りに、昭和61年度までの3年間①ビニールシートによる盤状体の冷蔵保存、②種網による冷蔵保存を実施してきた。後者については、新技術実証事業へつなげ得るだけの成果を見ることはできなかったが、前者については61年度の新技術実証事業へ展開することができた。モズク関連の冷蔵保存に関する技術改良試験については、昭和61年度で最終報告とし、昭和62年度以降は県水産試験場へ同課題についての追試験を検討させたい。以下技術改良試験の概要について報告する。

2. 要 約

- (1) 前回同様高温による採種量の低下により、予定通りの成果を得ることはできなかった。
- (2) 放出促進に伴う海水永処理に問題はなかったか？
一部地域では有効との情報もあり、再検討の必要がある。
- (3) 沖出し時期が10月初期で、同時期の通常採苗網についても同様な結果がみられることから、今後は、水試へ上げて追試の必要があろう。
- (4) 今回の試験では、前回、問題提起された乾燥対策についてのドブ漬保存の結果は明らかでない。